安全データシート（ＳＤＳ）

1.化学品及び会社情報

昭　和　化　学　株　式　会　社
東京都中央区日本橋本町４－３－８
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡　同　上
改訂日　2024/05/20
SDS整理番号　08035250

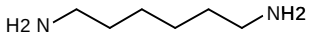
製品等のコード　：　0803-5250、0803-5130、0803-5150

製品等の名称　：　ヘキサメチレンジアミン

推奨用途　：　試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的用途。規格により用途は相違。)
ポリアミドの製造(ナイロン66の原料）、ヘキサメチレンジイソシアネート、
原料界面活性剤など

使用上の制限　：　推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

物理化学的危険性
- 可燃性固体　：　区分に該当しない
- 自然発火性固体　：　区分に該当しない

健康に対する有害性
- 急性毒性（経口）　：　区分4
- 急性毒性（経皮）　：　区分4
- 皮膚腐食性/刺激性　：　区分1
- 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性　：　区分1
- 皮膚感作性　：　区分1
- 生殖毒性　：　区分2
- 特定標的臓器毒性（単回ばく露）　：　区分1（呼吸器）、区分2（全身毒性）
- 特定標的臓器毒性（反復ばく露）　：　区分1（気道）

環境に対する有害性
- 水生環境有害性 短期(急性)　：　区分3

注意喚起語：　危険

危険有害性情報
- 飲み込むと有害（経口）
- 皮膚に接触すると有害（経皮）
- 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
- 重篤な眼の損傷
- アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ
- 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
- 臓器（呼吸器）の障害
- 臓器（全身毒性）の障害のおそれ
- 長期又は反復暴露による臓器（気道）の障害
- 水生生物に有害

注意書き
【安全対策】
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。
【応急措置】
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせない。気分が悪い時は医師に連絡すること。
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと、取り除くこと。
皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合：水で30分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
【保管】
湿気、日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3.組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	：	化学物質
化学名	：	ヘキサメチレンジアミン （別名）1,6-ジアミノヘキサン、1,6-ヘキサメチレンジアミン ヘキサン-1,6-ジアミン （英名）Hexamethylenediamine（EC名称）、 1,6-Diaminohexane、1,6-Hexanediamine（TSCA名称）、 1,6-Hexamethylenediamine、Hexame-1,6-diamine、 ＨＭＤ、ＨＭＤＡ、ＮＣＩ-Ｃ-61405
成分及び含有量	：	ヘキサメチレンジアミン、　99.0%以上
化学式及び構造式	：	C6H16N2、　NH2(CH2)6NH2、　構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	：	116.21
官報公示整理番号　化審法	：	(2)-153
安衛法	：	公表化学物質（化審法番号を準用）
CAS No.	：	124-09-4
EC　No.	：	204-679-6
危険有害成分	：	ヘキサメチレンジアミン

4.応急処置

吸入した場合	：	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の治療を受ける。
皮膚に付着した場合	：	直ちに医師に連絡する。 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。 皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激又は発疹が生じた時は、医師の診察、手当を受ける。 洗浄開始が遅れたり、洗浄不十分の場合は、皮膚障害のおそれがある。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	：	直ちに医師に連絡する。 直ちに、水で30分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてから ゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水 で洗浄すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で拡げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの 隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用していて固着していなければ除去し、 洗浄を続ける。 洗浄開始が遅れたり、洗浄不十分の場合は、眼障害のおそれがある。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。 眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の 診断を受ける。

飲み込んだ場合 ： 口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせてはいけない。
吐かせると再びのどや食道を通り二重に刺激・損傷を受けることになる。
直に牛乳や卵を飲ませて毒性を希釈する。
牛乳、卵がない時は、コップ数杯の水を飲ませ、体内で毒性を薄める。
意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないよう、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。
気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。

予想される急性症状及び遅発性症状:
吸入した場合 ：眼・気道の刺激、咳、息苦しさ、息切れ、咽頭痛、肺水腫。
症状は遅れて現れることがある。
皮膚に付着した場合：発赤、痛み、水泡、重度の熱傷
眼に入った場合 ：発赤、痛み、ただれ
経口摂取した場合 ：胃痙攣、腹痛、ショック又は虚脱

5.火災時の措置

適切な消火剤 ： 本製品は可燃性である。
粉末消火薬剤、水噴霧、泡消火薬剤、二酸化炭素
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
使ってはならない消火剤： 棒状放水（本品があふれ出し、 火災を拡大するおそれがあるため）
特有の危険有害性 ： 火災中に熱分解し、刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生する可能性がある。
特有の消火方法 ： 危険でなければ火災区域から容器を移動する。
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
消火を行う者の保護 ： 有毒ガス等の接触を避けるため、消火作業の際は風上から行い、
空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6.漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
： 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
環境に対する注意事項 ： 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。
回収、中和 ： 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。
回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
封じ込め及び浄化の方法・機材
： 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策 ： 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。
すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7.取扱いおよび保管上の注意

取扱い
技術的対策 ： 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
粉じん、ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。
粉じんの堆積を防止する。
局所排気・全体換気 ： 換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。
安全取扱い注意事項 ： 裸火禁止。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
接触回避 ： 湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管
技術的対策 ： 保管場所は耐火構造とし、出入口は施錠する。
保管場所は、採光と換気装置を設置する。
保管条件 ： 光のばく露や高温多湿を避けて保管する。
空気中の水分、二酸化炭素を吸収するので容器を密閉する。

使用後は容器を密栓する。
冷暗所に保管する。
一定の場所を定めて、施錠して保管する。
貯蔵する所には、白地に赤枠、赤文字で「医薬用外劇物」の表示を行う。
遮光した気密容器に入れ保管する。
混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。

混触危険物質　：　強酸化剤、酸
容器包装材料　：　ガラス、ポリプロピレン、ポリエチレンなど

8.ばく露防止及び保護措置

管理濃度　：　未設定
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：
日本産衛学会　未設定
ACGIH　TLV-TWA　0.5ppm
設備対策　：　この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。
取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具
呼吸器の保護具　：　呼吸器保護具（防じんマスク）を着用する。
手の保護具　：　保護手袋（ネオプレン製など）を着用する。
眼の保護具　：　保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具：　長袖作業衣を着用する。
必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策　：　この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。
作業衣を家に持ち帰ってはならない。
保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9．物理的及び化学的性質

物理状態
性状　：　固体
色　：　白色
臭い　：　アンモニア様の臭い
pH　：　約12（1%水溶液）
融点　：　38～45℃
凝固点　：　データなし
沸点　：　204～205℃
引火点　：　81℃(密閉式)
可燃性　：　データなし
爆発範囲　：　下限　0.7 vol %　　上限　6.3 vol %
蒸気圧　：　200 Pa(50℃)
相対ガス密度（空気 = 1）：　4.0
密度又は相対密度　：　0.93 g/cm3（20℃）
比重　：　データなし
溶解度　：　水に溶けやすい（33g/100mL、20℃）。
エタノール、ベンゼン、エーテルにわずかに溶ける。
オクタノール/水分配係数　：　log　Pow＝0.35
発火点　：　305℃
分解温度　：　データなし
粘度　：　データなし
動粘度　：　データなし
粒子特性　：　データなし

ＧＨＳ分類
可燃性固体　：　ICSC(2004)では可燃性としているが、国連危険物輸送勧告がクラス8（国連番号2280(固体)）であることから、区分に該当しないとした。
自然発火性固体　：　常温の空気と接触しても自然発火しない(発火点305℃(ICSC,2004))ことから、区分に該当しないとした。

10．安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）
：　吸湿性がある。空気中の水分を吸収する。
空気中の二酸化炭素を吸収し、炭酸塩を生成する。
光によって徐々に着色する。
常温の空気と接触しても自然発火しない(自然発火点305℃)。
危険有害反応可能性　：　アルカリ性物質のため、酸と激しく反応し、腐食性を示す。
水が介在すると、多くの金属を腐食する。

酸化剤と反応する。
避けるべき条件　：　高熱、日光、光、湿気、空気（炭酸ガス）
混触危険物質　：　酸化剤、酸
危険有害な分解生成物：　加熱すると分解し、有毒な窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素のガスを発生する。

11．有害性情報

急性毒性　：経口　ラット　LD50＝750 mg/kg（SIDS, 2011）
飲み込むと有害（経口）（区分4）
経皮　ウサギ　LD50＝1,110 mg/kg（ACGIH（7th, 2001））
皮膚に接触すると有害（経皮）　（区分4
吸入（蒸気）　分類できない。
吸入（粉じん）分類できない。

皮膚腐食性/刺激性　：ウサギ3匹の皮膚に本物質85%含む試験物質を適用後1分以内に疼痛反応、さらに15分間のパッチ除去直後に小水泡を伴う強い紅斑が観察された（SIDS（2011））。また、ウサギ3匹に試験物質粉末を24時間適用した結果、刺激性スコアは3匹とも全ての観察時点で8(最大8)で腐食性あり（corrosive）と評価された（USEPA/HPV（2003)、List1相当）。
以上のデータより、区分１とした。
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷（区分1）

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性：ウサギの眼に25%水溶液0.1mLを30秒間適用した試験において、不可逆性の極度の刺激を起こし、刺激性スコアは全観察時点で110(/110)であった（USEPA/HPV（2003））ことから、区分１とした。
なお、本物質のｐH（100 g/L水溶液）は 12.4（GESTIS(Access on Sept. 2011)）と記載されている。
重篤な眼の損傷（区分1）

呼吸器感作性　：分類できない。

皮膚感作性　：ヒトにおいて下着の着用により発疹が出現したため、溶媒分画及び検出成分のパッチテストを施行したところ、ヘキサメチレンジアミンに陽性反応があり、アレルギー性接触皮膚炎であった（NITE初期リスク評価書 117（2008））との報告があり、さらに、Contact Dermatitisにアレルギー物質として掲載されている（Contact Dermatitis（Frosch）（4th, 2006)、List1相当）ことから、区分１とした。
なお、モルモットを用いた皮膚感作性試験では陰性結果（NITE初期リスク評価書 117（2008））が報告されている。
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ　（区分1）

生殖細胞変異原性　：区分に該当しない。
体細胞in vivo変異原性試験として、ラットに経口投与による骨髄細胞を用いた染色体異常試験（USEPA/HPV（2003））およびマウスの末梢血を用いた小核試験（ACGIH（2001））でいずれも陰性の報告があった。
また、in vitro試験としてエームス試験（NITE初期リスク評価書 117（2008)、チャイニーズハムスターCHO細胞を用いた染色体異常試験（NTP DB ID780219(1982)）、およびチャイニーズハムスターCHO/K1細胞を用いた遺伝子突然変異試験（USEPA/HPV(2003)）で、いずれも陰性が報告されている。

発がん性　：分類できない。
知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できない。

生殖毒性　：ラットに経口投与による二世代生殖試験（GLP準拠）の結果、親動物としてF0及びF1の雄に体重増加抑制が見られた用量で、F0およびF1とも同腹仔数の減少を示した（NITE初期リスク評価書 117（2008））ことから、区分2とした。
なお、ラットの器官形成期を含む妊娠期間中に経口投与した発生毒性試験（GLP:yes）においては、母動物の体重増加抑制が見られた用量で、催奇形性を含め仔の発生に及ぼす影響は認められていない（NITE初期リスク評価書 117（2008)、SIDS(2011)）。
生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い　（区分２）

特定標的臓器毒性（単回ばく露）　：ヒトで本物質は眼、皮膚、気道に対して腐食性を示し、吸入すると灼熱感、咳、息苦しさ、息切れ、咽頭痛を生じる（環境省リスク評価 第3巻（2004））との報告、さらにラットに2100 ppm（9.984 mg/L）の本物質蒸気を6時間、2回吸入ばく露（4時間換算値: 17.293 mg/L）した試験で、鼻部刺激反応、呼吸困難、嗜眠、気管支炎、肺水腫、肺出血がみられた（NITE初期リスク評価書 117（2008））と報告により、ヒトでの知見があることから区分１（呼吸器）とした。
その他に、ラットに500, 700, 800, 1000 mg/kg bwを経口投与により、脱力、会陰部や顔面の汚れ、脱毛、下痢などの症状が観察され、700 mg/kg以上で死亡が発生し、LD50値は792 mg/kgと報告（USEPA/HPV（2003））されているが、区分2のガイダンス値範囲にあり標的臓器を特定できないので、区分2（全身毒性）とした。

呼吸器の障害（区分1）
全身毒性の障害のおそれ（区分2）

特定標的臓器毒性
（反復ばく露）　：本物質に暴露されていた労働者20 人の調査で結膜及び上気道の刺激が報告され（環境省リスク評価第3巻(2004)）、また、ヒトで本物質のばく露による主な所見は皮膚と上気道の刺激であった（ACGIH (2001)）と記述されている。さらに、動物試験では、ラットに13週間吸入ばく露（ミスト）により51 mg/m3以上の群で鼻・口周囲に滲出物がみられ、215 mg/m3群では全例が試験終了前に死亡または瀕死状態となり、鼻腔及び気管粘膜に扁平上皮化生がみられた（NITE初期リスク評価書 117 (2008)）との報告がある。以上の知見に基づき区分１（気道）とした。
長期又は反復ばく露による臓器（気道）の障害（区分2）

誤えん有害性　：分類できない。

12．環境影響情報

生態毒性
水生環境有害性 短期(急性)：藻類（Pseudokirchneriella subcapitata）
0-72時間ErC50 = 18.1 mg/L (NITE初期リスク評価書, 2008)
水生生物に有害（区分3）
水生環境有害性 長期(慢性)：区分に該当しない。
慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり（2週間でのBODによる分解度：55.5%、TOCによる分解度：96.9%、HPLCによる分解度：100%（既存点検, 1975））、甲殻類（オオミジンコ）の21日間NOEC = 4.16 mg/L(NITE初期リスク評価書, 2008他))であることから、区分に該当しない。

残留性・分解性　：良分解性。BOD分解度＝55.5%、TOC分解度＝96.9%、HPLC分解度＝100%
生物蓄積性　：低濃縮性。Log Pow＝0.35
土壌中の移動性　：データなし
オゾン層への有害性　：本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13.廃棄上の注意

残余廃棄物　：関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
（参考）(1)燃焼法
可燃性溶剤に溶解し噴霧するか、又はケイソウ土、木粉（おが屑）等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラバー付き焼却炉の火室で焼却する。
(2)活性汚泥法
生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。

汚染容器及び包装　：内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14．輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号　：153

国際規制
海上規制情報（IMO/IMDGコードの規定に従う）
UN No.　：2280
Proper Shipping Name：HEXAMETHYLENEDIAMINE, SOLID
Class　：8（腐食性物質）
Sub risk　：－
Packing Group　：III
Marine Pollutant　：No（非該当）
Limited Quantity　：5kg
航空規制情報（ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う）
UN No.　：2280

Proper Shipping Name：Hexamethylenediamine, solid
Class　：8
Sub risk　：－
Packing Group　：III

国内規制
陸上規制情報（毒劇法、道路法の規定に従う）
海上規制情報（船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う）
国連番号　：2280
品名　：ヘキサメチレンジアミン（固体）
クラス　：8
副次危険　：－
容器等級　：III
海洋汚染物質　：非該当
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類
：Y（ヘキサメチレンジアミン及びその溶液）
少量危険物許容量　：5kg
航空規制情報　航空法の規定に従う。
国連番号　：2280
品名　：ヘキサメチレンジアミン（固体）
クラス　：8
副次危険　：－
等級　：III
少量輸送許容物件
許容量　：5kg

特別の安全対策　：輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。
重量物を上積みしない。
他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。
他の危険物のそばに積載しない。
車輌等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

15．適用法令

労働安全衛生法　：名称等を表示すべき危険物及び有害物
（政令番号 第518号「ヘキサメチレンジアミン」、対象重量%は≧１）
名称等を通知すべき危険物及び有害物
（政令番号 第518号「ヘキサメチレンジアミン」、対象重量%は≧0.1）
（別表第９）
皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の使用義務物質「皮膚刺激性有害物質」
「ヘキサメチレンジアミン、対象重量%は≧１」
（安衛則第594条の2）
化審法　：旧第二種監視化学物質 No.1019「ヘキサメチレンジアミン」
（官報公示日：2010/04/01）
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)
：・種　別　「第1種指定化学物質」
・政令番号　「1-434」〔ただし、R5年4月1日から「1-434」に変更〕
・管理番号　「390」
・政令名称　「ヘキサメチレンジアミン」
消防法　：非該当（但し、指定可燃物、可燃性固体類）
毒物及び劇物取締法：劇物「ヘキサン-1,6-ジアミン」(指定令第２条第91の3号)、包装等級III
船舶安全法　：腐食性物質（危規則第２，３条危険物告示別表第１）
航空法　：腐食性物質（施行規則第１９４条危険物告示別表第１）
海洋汚染防止法　：有害液体物質 Y類物質「ヘキサメチレンジアミン及びその溶液」
（施行令別表第1）
大気汚染防止法　：有害大気汚染物質（中環審第９次答申の２０５）
輸出貿易管理令　：キャッチオール規制（別表第1の16項）
HSコード：2921.22
第29類 有機化学品
・輸出統計番号（2024年1月版)：2921.22-000
「アミン官能化合物
－非環式ポリアミン及びその誘導体並びにこれらの塩：ヘキサメチレンジアミン及びその塩」
・輸入統計番号（2024年4月1日版)：2921.22-000
「アミン官能化合物
－非環式ポリアミン及びその誘導体並びにこれらの塩：ヘキサメチレンジアミン及びその塩」

16.その他の情報

（注）本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項：

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施錠、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献：

化学物質管理促進法PRTR･MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険･有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修 中央労働災害防止協会編

Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH　CD-ROM

GHS分類結果データベース	nite (独立行政法人　製品評価技術基盤機構)	HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター	HP

このデータは作成の時点においての知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。